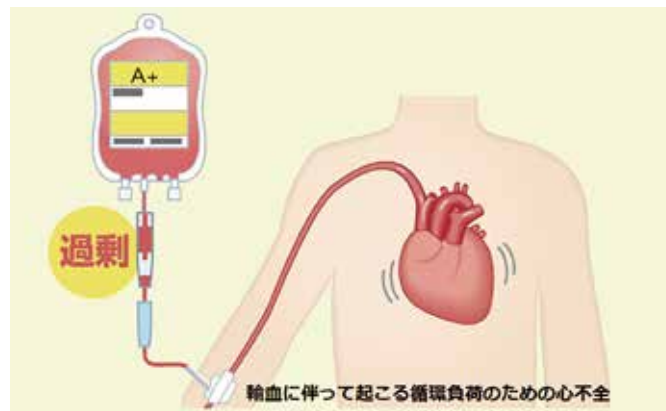


— 輸血を計画される先生方へ —

輸血関連循環過負荷 (TACO) の発症に気を付けましょう。

輸血関連循環過負荷 (TACO) は、心機能・腎機能の低下した患者さんに過量なまたは急速な輸血を行った場合にみられる合併症で、左心房圧または左心室拡張末期圧の上昇ないしは右心房圧の上昇を伴う「心不全」と考えられています。米国FDAの報告では、輸血に関連した死亡の原因で2番目に多いとされています。



治療は血管拡張薬+利尿薬などが必要で、重症例は強心薬+血管拡張薬(血圧低下症例では血管収縮薬)や利尿薬、最重症例では補助循環などが必要となる場合も考えられます。

昨今の高齢者人口の増加により、貧血をきたす消化器系・泌尿器系・生殖器系などの悪性腫瘍と心筋梗塞発症後などの心機能低下状態を併せ持つ患者さんが増加していることが想定されます。

TACOは、明らかな心不全(肺水腫や浮腫)は発症していないけれども心機能の低下した(潜在的な心不全の)患者さんに過量の或いは速度の速過ぎる輸血をした場合に起こり得ます。輸血によって肺水腫をきたした場合は、低酸素血症に引き続き徐脈・心停止をきたし致命的ですので、輸血を中止し酸素投与、急性心不全の治療を急がないといけません。どうしても急性心不全と貧血の治療を併用しないといけない場合は、まず心不全の治療を優先させましょう。

TACOをきたさないためには、輸血前に必ずすべての患者さんまたは家族に循環器疾患の既往歴の有無を問診し、既往がある場合は、心エコーなどで心機能(左室駆出率)低下や左心房圧・右心房圧の上昇がないか調べておくことが望ましいと考えられます。その患者さんの循環血液量を知り、目的とするHb値や血小板数を達成するのに必要とされる血液製剤の量を計算して輸血量が過量にならないように注意し、左室駆出率の低下や左心房圧・右心房圧の上昇がみられる場合は、輸血速度を十分に落として輸血するなどの注意が必要です。

(鳥取県赤十字血液センター 所長 縄田隆浩)

カープ献血デー!

広島県では、広島ライオンズクラブの皆さんにご協力をいただき、数年にわたってホーム開幕第2戦の、カープファンに埋め尽くされたマツダスタジアムで赤十字活動や献血のPRとして、救急法の講習や献血バスによる移動採血の実施を行っております。

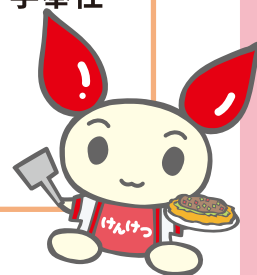
毎年、主催となっていていただいている広島ライオンズクラブの皆さんには、献血の受付開始と同時に、スタジアムにお越しの方々に献血参加への呼びかけを積極的に行っていただき、献血協力の記念品として、カープ応援グッズもご提供いただいております。



献血会場には突然球団マスコットのスライリーが登場!!



プラカードを持って献血の呼びかけをしてくれたあとに、けんけつちゃんとコラボして赤十字奉仕団による救急法・AEDのデモンストレーションの実施に協力してくれました!



試合の途中に、オーロラビジョンからカープ選手による献血を応援するメッセージが流れ、5回終了後には、けんけつちゃんやスライリーと一緒に赤十字救護服を着た学生ボランティアの皆さんが登場し、CCダンスを踊りました!

広島東洋カープ×広島ライオンズクラブ×日本赤十字社が「もっとクロス!!」して、多くの方に赤十字の事業を知っていただき、献血にご協力いただくこのプロジェクト。

今後も、「強いカープ」と「熱いカープファン」と一緒にマツダスタジアムを「赤」十字一色に染めることができればうれしいです。

(広島県赤十字血液センター 推進課 佐藤潤一)